



八王子盲学校だより



令和7年3月発行 第11号
東京都立八王子盲学校長 田島 由紀子

卒業する皆さんへ

校長 田島 由紀子

伊坂幸太郎の『チルドレン』という小説の中に、主人公の家庭裁判所調査官が、「俺たちの(仕事の)目的は奇跡を起こすこと」と言う台詞があります。家庭裁判所調査官というのは家庭裁判所で取り扱っている家事事件、少年事件などについて、調査を行うのが主な仕事(裁判所ウェブサイトより引用)です。調査にかかわる中で、少年事件の加害者である少年の更生にも携わる仕事なのですが、その仕事について、「駄目なやつはどうやったって駄目だ、更正させるなんて奇跡みたいなものだ」と言う中年男に対し、主人公が言い放った言葉が、冒頭の「奇跡を起こす仕事」なのです。この話の続きで、主人公は、中年男にこう言います。「あんた達の仕事では奇跡を起こせるのか？」私は学校で働く身として、ふとした瞬間にこの言葉を思い出します。

我々教員は、どうしても経験則で考えてしまうところがあります。このくらいの成績ならこういう学校に行けるだろう、とか、こういうことが得意ならこんな仕事に就くとよいだろう、など、経験を積み積むほど、これまでの経験にしばられて、これが安全な歩きやすい道、というものをアドバイスしてしまいがちです。しかし、我々の経験則は、果たして正しいのでしょうか。この将来の変化の予測が困難な時代において、我々の「これなら安全、歩きやすい」と思う道は、未来永劫「安全な、歩きやすい道」たりえるのでしょうか。そして、人は「安全な、歩きやすい道」を行くことが人生の目標なのでしょうか。

なにより、本当に大切なことは、道を選ぶ本人が、真剣に自分と向き合い、自分はこの道を行きたいのだ、そのためにどんな努力も厭わないのだと思った道を進むことであり、そのための力を身に付ける支援をするのが学校ではないかと思うのです。未知の可能性に挑戦する力を養えば、奇跡と思われる道だって、切り開けるのではないかと考えるのです。

さて、これから新しい道へ踏み出す卒業する皆さんへ、
最後に日本を代表する人気者の言葉を借りて、皆さんへのエールとします。

『障害があつたら、のりにえればいい！

きみはかんちがいしてるんだ。“道をえらぶ”ということは、かならずしも

“歩きやすい安全な道をえらぶ”ってことじゃないんだぞ！』 ドラえもん

幼小学部

桜の便りもうれしい春、3月です。本校でも幼稚部修了式、小学部卒業式が21日(金)に行われる予定です。送る人送られる人ともに感謝と応援の気持ちを込めて、歌の練習や記念品の制作にと旅立ちの準備に余念がありません。振り返れば日々の活動は着実に積み重なり、1年間学習を修めた子供たちはみんな、昨年の春より一回り大きくなりました。自信をもって進級進学していきましょう。

幼小学部主幹 深澤 陽子

中学部

中学部では、企業で働いている卒業生のお話を聞く「進路講座」(普通科と合同実施)や、期末試験、多摩森林科学園での校外学習も終わり、3学期や今年度の学習の総まとめを行っています。廊下に掲示された、生徒が自分で漢字一字を選んで書いた「書初め」からは、一人一人の願いや決意を感じます。「3年生を送る会」や卒業式に向けて、また、残り少なくなった日々の授業の中で、卒業生、在校生ともに互いに高め合い、尊重し合いながら、一日一日を大切に過ごしましょう。そして、自分の願いや決意に向けて、着実に取り組んでいきましょう。

中学部主幹 栗本 みゆき

高等部

あっという間の3学期。3年生は卒業試験や国家試験、進路活動。1・2年生は学期末試験等、大変だったと思います。お疲れさまでした。高等部の生徒を見ると、一日一日を大切に、将来に向けての準備をすることが大切だと感じます。次年度に向けて、今できることに取り組んでいきましょう。

高等部主幹 伊藤 洋介

<校舎改築に関する工事等の予定>

旧校舎の解体工事が順調に進んでいます。管理棟の解体も終盤にさしかかり、間もなく校庭に面していた校舎棟の解体工事が始まる予定です。ホームページに工事の様子を掲載しています。併せて御覧ください。

<学校評価アンケートについて>

学校評価アンケートへの御協力ありがとうございました。集計結果とまとめについては3月下旬に、本校ホームページに掲載いたしますので御覧ください。

<今後の予定>

令和6年度 修了式 3月25日(火)

令和7年度 始業式 4月 7日(月)

令和7年度 入学式 4月 8日(火)

仮設校舎(東側)

仮設校舎(西側)



本校 スクールバス

旧校舎 解体中

